

目指せ日本一！ブロッコリー産地拡大

目的

徳島県のブロッコリーは全国第6位の作付面積を誇るが、その面積増加割合が鈍化している。一方、令和6年4月にはJAの大型合併があり、令和8年度には指定野菜に格上げになり生産環境の向上が期待されることから、生産技術、規模拡大、販売戦略、担い手・経営の対策を行い、生産量・収益アップを図る。



現状 → 課題

【作付面積】

- 令和元年以降面積増加傾向が鈍化

→ 鈍化の要因が未解明

【生産技術】

- 全体では反収は増加傾向も各生産者で反収に差がある(1t以下～1.5t)

→ 各生産者に技術格差がある。
→ 新病害黒すす病が地域により多発
→ 肥料を低減し、生産性も上げたい

【規模拡大】

- 1経営体の経営規模は増加傾向

→ 規模拡大傾向の継続(省力化技術導入)
(労務管理の最適化)

【販売】

- JA合併後も支所毎の集荷分荷が継続

→ ロット確保に向けた産地間連携

- 加工業務原料の需要の増加

→ 新たな生産・販売体制の構築

【担い手・経営】

- R8年度に指定野菜となること(生産環境が改善)が決定

→ 産地指定要件の確保
新規栽培者確保のチャンス

課題解決に向けて

【作付面積】

- 大規模経営体調査による鈍化要因の解明

園芸産地リノベーションの活用



【生産技術】

- 栽培技術の高位平準化
- 新しい黒すす病防除体系の構築、マニュアル作成
- 徳島県版緑肥利用マニュアルの作成



【規模拡大】

補助事業の活用

- 省力化：スマート農機の導入支援(ドローン防除など)
- 労務管理：収穫時期・収量予測システムと簡易花蕾測定技術開発により適期に最少回数で収穫(労務管理が容易に)
- 大規模経営モデルの策定

【販売】

- 出荷規格の統一化、集出荷施設の効率化に向けた検討
- 出荷予測ソフト(あい作)の導入による出荷時期の平準化
- 花蕾生育の斉一性向上技術の開発による機械収穫実現
- 加工業務用栽培の経営モデル検証
- 加工業務原料の販路開拓



【担い手・経営】

- 指定野菜の要件確保に向けた作付推進
- 新規参入の入り口となる農業支援サービスの拡充・支援
- 新規ほ場整備地への意欲ある生産法人の参入促進

補助事業の活用

目指すべき姿

- 県内がほぼ同じ技術水準となり、生産性が高位平準化
- ブロッコリーを核とした中・大規模経営体が増加し、栽培面積が拡大
- 有利販売と加工業務用による販売チャンネルの多角化で経営の安定化
- 産地の収益性・魅力アップにより新規生産者が増加し、栽培面積が拡大

更なる増産と販売力の強化により、県下一円の産地が発展し、地域活性化を実現

【成果目標】 収穫量 11,700 t (R4) → 12,800 t (R8)
生産面積 974ha (R4) → 1,000ha (R8)



【推進体制の構築】

県

経営推進課
各農業支援センター
農産園芸研究課
資源環境研究課
みどり戦略推進課
農山漁村振興課

関係団体

JA全農とくしま
JA徳島中央会
JA徳島県
JA徳島市
JA東とくしま
各市町・農業委員会
農機メーカー